

■湯浅年子 物理学者。第二次大戦下、キュリー夫人の指導で、フランスの博士号。戦後も、フランスで研究活動。

ゆあさとしこ

伊藤博文暗殺1909= 東京下町の上野桜木町で、東大工学部機械工学科出身の農商務省特許局官僚の四女に生まれる。
兄弟6人に加え、使用人や書生もいる大所帯の家で、病気がちのため、母に見守られながら育ち、
明治天皇没・1912= 3歳：
大正政変・1913= 4歳：家が類焼に会ったため、一家で山の手の牛込加賀町に転居、
母は国学者橋守部の曾孫で、江戸下町の詩歌管絃への造詣深かったが、和歌以外はなじまず、
21ヶ条要求・1915= 6歳：市ヶ谷小学校に入学するが、
電車道が危ないと母の心配で、
第一次大戦終1918= 9歳：愛日小学校に転校。

この頃、父が退官して、自動製糸機の発明に没頭し始めたのを畏敬の念で見つめ、
原敬首相暗殺1921=12歳：
水平社結成・1922=13歳：東京女子高等師範学校付属高等女学校に入学。

金融恐慌・1927=18歳：卒業。女子が理科に進むには、選択の余地無く、東京女子高等師範学校理科に入学。この年、女性で日本初の理学博士となった保井コノから強い影響を受け、この頃、父が10年がかりで完全自動製糸機を完成。

満州事変・1931=22歳：*卒業。門戸がやや拡大するなか、東京文理科大学物理学科に進み、物理では日本初の女子学生となる。

帝人疑獄事件1934=25歳：卒業。同大副手として、研究生活を始め、女性差別の強さに沈みかける気持に鞭打ち、

芥川直木賞始1935=26歳：東京女子大学講師、

二二六事件・1936=27歳：

日中戦争始・1937=28歳：母校東京女高師の助教授となるが、教職には向いていないと、一層の研究を志し、

健保+総動員・1938=29歳：フランス政府給費留学生をめざし、フランス語を始めて、受験するも落第。一層勉学を進め、

第二次大戦始1939=30歳：トップの成績で合格し、長兄が急逝、父が胃痛で入院という状況で、

大政翼賛会・1940=31歳：*渡仏。障害乗り越え、ジョリオ=キュリーが所長をしていたコレジド=フランス原子核化学研究所に入所、

キュリー夫人の指導をうける。ドイツ軍のパリを占領で一時混乱するが、研究所存続し論文執筆、

日米開戦・1941=32歳：父が死去の報にも、教授に励まされて研究続行、三つの論文をまとめ、

創価学会検挙1943=34歳：「人工放射能物質のβ崩壊に関する研究」でフランスの博士号を取得。

年金+総武装・1944=35歳：義務の出版もオノラ氏奔走で日仏協会の支援で実現。米軍のパリ入城直前にベルリンへ逃避行、

敗戦・1945=36歳：工夫した実験器械を完成させた直後、ベルリン陥落し、ソ連による送還で、シベリア鉄道経由で、帰国。東京は焼野原、一家の疎開先下妻に着くと、東京大空襲で姉・姪失い、弟は重傷、重病の母はまもなく死去という状況のなか、東京女高師教官に復帰するも、実験装置は破壊されていて、苦悩する一方、

新憲法公布・1946=37歳：亡き母に捧げる翻訳「ピエール=キュリー一伝」刊行。

極東裁判決・1948=39歳：「科学の道」放射性同位元素とその生物医学界への応用出版、敗戦直後の日本人に新鮮な感動を与え、お茶ノ水女子大教授として、女子の科学教育、女性研究者のあり方等、教え子らに大きな影響を与えたが、

三大事件・1949=40歳：*独立回復前に逸早く、出張という形で再び渡仏し、ジョリオ=キュリー夫妻と再会、フランス国立中央科学研究所(CNRS)で研究に従事。

独立回復・1951=42歳：

メチ-事件・1952=43歳：お茶ノ水女子大の出張期限が切れるも、研究続行希望し、CNRS専任研究員となる。

自衛隊発足・1954=45歳：ビキニでの第五福竜丸被爆事件に際し、医学週刊誌に寄稿。放射能計算尺の発明に取り組み、

55年体制始・1955=46歳：*特許もとる。休職期限も切れたため、お茶ノ水女子大を退職し、CNRS主任研究員の資格取得。

国連加盟・1956=47歳：長年の研究被爆で、キュリー夫人が死去。自らも一時胆石痛。

なべ底不況・1957=48歳：正式に、CNRS主任研究員に昇格し、独自の霧箱を創案して評判になるとともに、研究も進む。

イスタンブ-ル・1958=49歳：ブリュッセル万博では、フランス館の原子核物理の歩み説明責任者となる一方、ジョリオ教授が死去。

美智子妃・1959=50歳：研究所がオルセーに移転。ロンドン国際会議出席。

安保闘争・1960=51歳：通勤のため、なんとか運転免許とるも、事故起こして負傷することも。

タイタイ病始・1961=52歳：ストラスブールとマンチェスターでの国際会議出席。

全国総合計画1962=53歳：パドゥア国際会議出席。フランス滞在のまま、京大から物理学分野で女性として初の論理学博士。

TV宇宙中継始1963=54歳：

東京オリンピック1964=55歳：パリ国際会議出席。

いざなぎ景気1966=57歳：ガトリンブルク国際会議出席。

美濃部都知事1967=58歳：原子核構造会議出席のため、18年ぶりに一時帰国。

霞ヶ関ビル・1968=59歳：ストラスブール国際会議出席。

全共闘ビ-ク・1969=60歳：バーミンガム国際会議出席。

大阪万博・1970=61歳：サリーとグルノーブルでの国際会議出席。

トルコショック・1971=62歳：ブダペスト国際会議出席。

日中国交回復1972=63歳：ロスアンジェルス国際会議出席。*この間、身体に不調が生じ、

石油ショック1973=64歳：ようやく医者にかかり、腫瘍の手術受ける。入院中、かねて取組んできたエッセイを完成させ、

角栄金脈辞任1974=65歳：「パリ随想」として出版されるや、大反響。以後、体調思わしくない状態続くなか、

ケアンズ事件1975=66歳：この年来仏の森有正の講演を聞く。定年で退任。体調から記念帰国できず、名誉研究員として研究続け、

田中角栄逮捕1976=67歳：アムステルダム国際会議に招待され講演。民間外交官として日仏交流に尽し、紫綬褒章受章。

JALハイジャック・1977=68歳：国際会議出席のため、無理をおして10年ぶりに帰国。エッセイ「続・パリ随想」刊行。

成田衝突・1978=69歳：交通事故で負傷するも、グラーツ国際会議に出席。

革新大敗北・1979=70歳：エッセイ「科学の饗宴」刊行するが、体調不良極限に達するなか、なお、エッセイを書き続けて、

貿易摩擦始・1980=71歳：フランス人から「日本のマダム=キュリー」と呼ばれるほどになって、没した。